

産社 Journal

長野市立長野高等学校 1 年産社係(1 組)

◇「私たちはどう生きるか」を考える授業

1 年生「産業社会と人間」の授業は、大きく捉えると、私たちはこれからどう生きていくかを考える授業です。これからの進路選択について深く考えるきっかけになれば、と思います。

◇大塚貴之さん 講演会

4/17(木)に「コミュニケーション」について、大塚貴之さんにお話しをしていただきました。

大塚さんは、耳が聞こえないというハンディキャップを持ちながら、小さいときからラグビーというハードな競技に取り組んできました。言うまでもない事ですが、ラグビーでは聴覚障がいを持っている事は不利になります。「だから、あえて挑戦する」という言葉が印象に残っています。

大塚さんのお話を聞いて、今後コミュニケーションをとるうえで意識したい事がいくつかあります。「目を相手と合わせる事」、「表情で気持ちを表現する事」、「ジェスチャーをうまく使う事」…などです。



◇大宮透さん 講演会

大宮透さんは 1988 年生まれ、36 歳の小布施町町長です。小布施町はほとんど人口が減っていない、珍しい町だという事を知りました。大宮さんは、町を魅力あるものにするため、昔からあるものを生かしながら、新しいものを作り上げているようです。桜の苗を植える際に寄付を募り、寄付をしてくれた人一人ひとりが、桜の木に名前を彫れる、という取り組みをしています。このことで、自分の名前のある木を観るために、小布施町に何度も観光客が訪れる、という仕組みづくりが印象に残っています。

また、大宮さんの生き方についても、勉強になる事がありました。「逃げ場を持つ」、「軽やかに生きる」という言葉です。もちろん適当に生きてはいけませんが、目標を絶対視せずに、肩の力を抜いて生活をする大切さを学びました。

町のリーダーとしての苦勞も伝わりましたが、大宮さんは人との出会いを大切にしながら、楽しんで仕事をしていると思いました。僕たちもやりがいや楽しさを感じられるような仕事を見つけたいです。

